

兵解協だより

(公社) 全解工連第13回(通算50回) 総会が兵庫県神戸市で開催されました。

また懇親会は斎藤兵庫県知事、久元神戸市長などを招き、盛大に開催されました。

令和6年6月7日(金) 神戸市中央区のホテルオークラで総会が開催されました。総会では、第11期事業報告、第12期事業計画、収支予算案などを採択。任期満了に伴う理事、役員の変更も行われました。午後6時から懇親会も開催され、来賓に斎藤兵庫県知事・久元神戸市長、地元選出の国会議員など多数の方々を招き盛大に開催されました。

通常総会では、実行委員長である兵庫県解体工事業協会の上原会長が登壇し「本日は全国から兵庫県神戸市に第13回の通常総会にお集まりいただき、誠に有難うございます。通算しますと第50回の記念すべき総会となり、心より歓迎申し上げます。ただいま平副会長から開会宣言をしていただき、昨年盛大に開催された福岡県から非常に思いのこもったバトンをお預かりいたし、待たなしの1年でしたが、近畿ブロックの皆様方から大きな支援をいただいておりますこと、心より御礼申し上げます。総会後には木村委員長から、全解工連の今後の指標となり、次世代の担い手たちの進むべき道となる全解工連ビジョン2024年も発表されます。全解工連のスローガンである『DEMOLITION to the next stage』の言葉のとおり、次の場所へ行く方策の数々が盛り込まれています。我々の組織を変える、そのためのスタート地点が、ここ兵庫県になることを非常にうれしく思い、誇りにも感じる次第です。石川県から能登半島地震に関する報告と支援に対する感謝の言葉を述べたいとの申し出がありましたので、その時間も取らせていただきます。本日ご出席の皆様方の益々のご健勝とご多幸を祈念いたしまして歓迎の挨拶とさせていただきます」と開会の挨拶を行いました。これを受け、井上全解工連会長が「全国に知名度の高い神戸で開催される本日の総会には、約300名、懇親会は約350名が参加されます。大勢の皆様をお迎えしなければならない上原会長にとってはかなりのプレッシャーではなかったかと思えます。全解工連ビジョンについては、これから進むべき道を皆様に提示をして、具体的に動いていかなければなりません。今後の解体工事には、このビジョンが非常に大事になってきます。皆様にいろいろとご報告をしながら、より良い業界にして次の世代に繋ぐことが出来るようにしていきたい。今後とも皆様にご協力をいただきながら進めていきたいと思っております」との挨拶がありました。



挨拶をする上原会長



挨拶をする井上全解工連会長



総会の風景

兵解協だより

(一社) 兵庫県解体工事業協会

(公) 全国解体工事業団体連合会会員

事務局 神戸市兵庫区北逆瀬川町3-11

TEL 078-681-7710

TEL 078-599-8874

E メールアドレス n-kaitai@hb.tp1.jp

引続き、午後6時から懇親会が開催されました。冒頭に、講師「旭堂南歩」氏による「講釈」が行われました。演題は「兵庫県解体工事業協会のあゆみ」と「来年発生から30年を迎える阪神・淡路大震災」を題材にした「創作講談」を流暢でテンポの良い口調で披露され、懇親会のスタートに華を添えていただきました。

そして、宮田副会長の、開会の辞に続き、兵庫県解体工事業協会の上原会長が、「通常総会、ビジョン発表も滞りなく終了いたしました。引続き懇親会にたくさんの方々にお集まりいただき、齋藤元彦兵庫県知事、久元喜造神戸市長をはじめ、ご来賓の皆様方にご出席を賜り、誠に有難うございます。役員人事も井上会長の続投や新たな19名の方が新理事になることが決定いたしました。新たなメンバーで先ほど木村副会長から発表されました全解工連ビジョン2024の実現に向けて、動き出すわけですが、本日ここにお集まりの会員企業、賛助会員の方々、そして行政のご指導、ご協力を得て夢をかなえる第一歩を踏み出しました。この場におられる皆様方全員が我々の強力なサポートであり、良きアドバイザーでもあります。災害大国日本に暮らすすべての人々にとっても、エッセンシャルワーカーである解体工事業が、空き家、老朽建物等の解体を推進していき、安心、安全なまちづくりの礎となることが大切ではないでしょうか。ビジョン以外にも当業界には多くの課題や問題点もあります。みんなで一丸となって業界を変えていこうではありませんか。改めて皆様の兵庫県神戸市へのご来訪を歓迎し、是非、懇親の場を広げていただければ幸いです。ありがとうございました」と歓迎の挨拶を行いました。



挨拶をする齋藤兵庫県知事



挨拶をする久元神戸市長



乾杯の音頭をとる赤羽前国土交通大臣

次に、井上全解工連会長による主催者挨拶の後、来賓祝辞に移り、齋藤兵庫県知事は、「元日に能登で大きな地震がありました。今回、多くの会員の皆様が現地で活動していただいていると聞いております。兵庫県も石川県珠洲市をカウンターパートナーとして支援を行っております。来年で阪神・淡路大震災から30年の節目になります。その震災の時にも多くの解体工事業の皆様にご尽力をいただきました。それが兵庫の復興につながったと思っております。兵庫県解体工事業協会の皆様とは災害協定を結ばせていただいております。これからは何が起こるか分からない時代ですので、公共工事をはじめ、様々な所で皆様のお力が必要でございますのでよろしくお願いいたします」との挨拶がありました。続きまして、久元神戸市長は、「全国解体工事業団体連合会」の通常総会を神戸で開催していただきましたことに感謝申し上げます。来年30年を迎える大震災の後、神戸の街は、皆様からの支援をいただきながら、復興を果たすことが出来ました。これもインフラや建物を早期に解体することが出来たことが原点でありますことを改めまして、再認識したいと思います。